

こう使う!

COLUMBUS 21

ENGLISH COURSE

ストーリー性に優れていると好評をいただいている

中学校の英語教科書『COLUMBUS 21』。

現場では、どう評価され、どのように使われているのでしょうか。実際に使用している学校を取材し、先生のインタビュー(前半)と授業リポート(後半)の2部構成でご紹介します。



トキワ松学園中学校高等学校



東京都目黒区にある中高一貫の私立の女子校。1916(大正5)年に創設。中学1年時から、「Listening & Speaking」の授業で、個人で発表する機会を多くつくり、「イングリッシュデイ」や「インターナショナルアワー」を設けたりすることで、ネイティブはもちろん、非英語圏の人たちとも、英語を介してコミュニケーションを図る機会をつくっている。

平山朝子先生

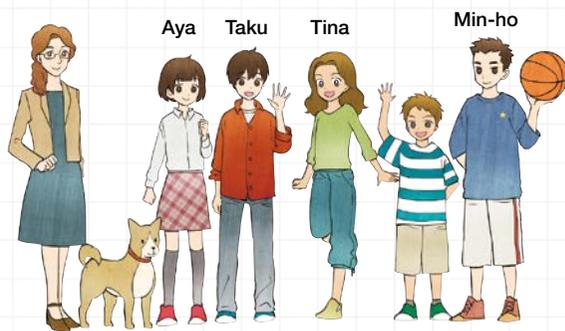
トキワ松学園中学校高等学校 英語科教諭
大学では英文学を専攻。教育実習で授業の楽しさに目覚め英語教師に。現場に出て英語教育についてより深く学ぶ必要性を感じ、修士課程に進学、修士号取得。その後、英国にて心理学の修士号を取得。2009年から現職。

ストーリー展開のおもしろさ

中学校英語教科書が平成24年度に改訂されたときに、英語科教員の満場一致で、『COLUMBUS 21』を採用することにしました。主な理由は、全体を通した**ストーリーがとてもいい**と感じたことと、この教科書の「英語を『聞く』活動、『話す』活動」の部分が、本校の「Listening & Speaking」の活動と相性がよさそうだったことです。また、**ネイティブの教員が、「この教科書の英語がいちばん自然だ」と**言っていたことも大きかったです。

実際に使ってみて感じたのは、想像以上に入り込みやすいストーリー展開と、それが生徒の英語学習に及ぼす影響でした。

主な登場人物は、中学生で同じクラスの男女



4人。音楽好きな少年タクと、韓国出身の少年ミンホ、心優しい女の子アヤ。この3人と同じクラスに、アメリカからティナという女の子がやってきます。この4人が出会って学校生活を共にし、一緒にいろいろなところへ出かけたり、互いのことを語ったりして、人間関係を築きながら、3年間で成長していくストーリーです。

生徒たちも、英語を通じてこの4人に感情移入し、異文化を学び、いろいろなテーマでクラ

スマートと語ったりしながら、4人と一緒に3年間かけて成長していくことができます。

生徒たちは、「ほら、ティナがここでこんなふうに言ってるよ。やっぱりティナはタクのことが好きなんじゃない?」と、教科書を何回も読み返し、3年生になったときに「あ、そういえばあのときアヤは何て言ったっけ?」と、2年生のときの教科書を読み返してみたりと、自発的に、学年を超えて何度も教科書に触れています。こんなふうにも、**自然と繰り返し学習し、理解が深められるのも、3年間を通したストーリー展開のおもしろさにあるのではないかと**感じています。

1Unitを2回繰り返す

各Unitのストーリー(本文)は2~4セクションに分かれており、それぞれ生徒たちが読むのにあまり負担がない分量になっています。見開きで、左ページに本文と内容理解のためのクイズや表現、新出単語などがあり、右ページに基本本文やリスニング問題、ドリル、スピーキングの練習などがあります。

この教科書を使い始めた当初は、ページ順に本文を読んで内容を確認し、基本本文を中心に右ページを学習して、次の本文へ、という進め方をしていたのですが、**ストーリーがおもしろいので、途中で切ってしまうのはもったいないな**、と思いました。

そこで、まずはUnit内の本文だけを通して全て読んでしまう、という方法にしました。単語の意味や文法事項の確認もしますが、1回目は、ひとまずざっと読んで大まかな流れをつかむ感



見開きで左ページが本文、右ページが基本本文のまとめや、4技能を使うドリルや練習になっている。

じです。細かいところまでわからなくても、この段階ではあまり気にしません。細部にとらわれず、全体を俯瞰することも重要ですから。

2回目は、きちんと本文の内容を確認し、右ページをメインに手や口を動かして練習します。教科書は、週に4コマ行うので、**だいたい2週間かけて1Unitを2回繰り返す**、という形になります。

単語については、大意をつかむのにも必要なので、Unit内の重要単語をまとめて、毎時間確認しています。単語は何度も繰り返さないと染み込んでいかないので、毎回きちんと練習を行うようにしています。

外国語(英語)を身につけることは、自分の世界を広げることであり、より多くの人と知り合える機会を得ることです。そのための素材となるのが教科書です。まずは教科書で習ったことを自分の中に浸透させ、それを今度は自分の言葉に変えて言えるようにするために、『COLUMBUS 21』は、適した教科書だと思っています。

平山先生の授業は次のページでご紹介!

こう使う!
COLUMBUS 21
ENGLISH COURSE

平山先生の授業を レポート!

1年b組(生徒数:21名)

学習内容: Unit 10 Part 3(1回目)

本時の目標: Part 3の理解とPart 1,2の要点の復習



平山先生の授業は、英語の歌から始まる。今月の歌は、Stevie Wonder ft. Ariana Grandeの *Faith*。踊りだしたくなるようなアップテンポの曲で難しい単語も多いが、生徒は手元のプリントを見たり、電子黒板の映像を見たりしながら、楽しそうに歌う。

デジタル教科書を活用して、音読練習

歌の次は、毎時間行われる単語練習。生徒には、Unit 10の重要単語として、17語をまとめたプリントが配られており、それを使って、5分ほどリピートやペア練習を繰り返した。

単語練習が終わると、Part 1とPart 2の本文の復習を行う。平山先生は、光村「英語デジタル教科書」のPart 1の本文を、電子黒板に映し

出した。デジタル教科書は、音声の流れると同時に、本文の色が変わっていくので、今読まれているところがわかりやすく、生徒たちの顔も上がる。続いて、Part 2の本文を読むと、「皆さんこのパートは上手ですね」と平山先生。「じゃあ、スピードを上げて読んでみましょう」と、デジタル教科書の読むスピードを上げた。デジタル教科書は、音読の速さを「ゆっくり」「ふつう」「速い」から自由に選べるので便利だ。

登場人物の気持ちに寄り添う

ここでそろそろ授業も中盤。本時が初となるPart 3の本文に入る。平山先生は、生徒とやり取りをしながら、1文ずつ本文を読み、内容を確認していく。

今日の授業はココ!

●Unit10 Happy New Year

本文の内容: 元旦に、4人は車で待ち合わせて初詣に行く約束をしていたが、タクは風邪をひいてしまい……

	Part 1	Part 2	Part 3
1回目	第1時: 単語+本文	第2時: 単語+本文	第3時: 単語+本文 ★
2回目	第4時: 単語+本文+ドリルや練習	第5時: 単語+本文+ドリルや練習	第6時: 単語+本文+ドリルや練習
	第7時: 「You Can Do It!」お正月について話そう		
	第8時: 「Language Focus」YesやNoで答えられない疑問表現 / 「Writing Fun」メッセージカードを送ろう		

先生 What a big lantern! lantern って何?
生徒1 ちょうちん。
先生 そうだね。何て大きなちょうちん!
Have you ever been to Asakusa?
生徒2 Yes, 雷門!
先生 そう。Have you been there?
行ったことある?

生徒の体験とも結び付けながら、日本語を交えて本文の確認を進める。

先生 ミンホがティナに What's your wish?
生徒3 願いごとは?
先生 そう、あなたの願いは何? って。
そうしたらティナは?
生徒4 秘密だよ (It's a secret.), って。

するとここで、ある生徒が「ティナの願いはタクと結ばれますように!」。教室は大きな笑いに包まれた。

英語の文字文化も学ぶ

Part 3の本文内容の確認がひととおり終わったところで、平山先生は、ティナのメールの「:-D」と「;-)」の部分に注目させた。

「顔文字じゃない?」「え、上のは顔文字に見えるけど、下のは違うんじゃない?」などと言いつつ生徒に、平山先生は「そう、これは顔文字なんですよ。こう」と、該当部分を90度右回転させた。その後、電子黒板を使って、日本とアメリカの顔文字をいくつか対照させ、その違いについて意見を言い合い、楽しんだ。

顔文字で盛り上がったところで、本文の要点整理に入る。「What+(a)+名詞!=なんて(…な)~なんでしょう!」「How+形容詞!=なんて~

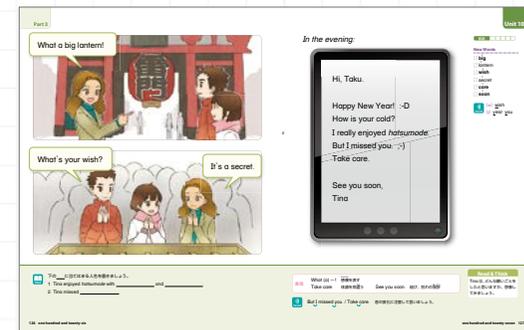


なんでしょう!」というポイントを、生徒に問いかけながら黒板に書いていく。

今度は、再び電子黒板に本文を表示させ、みんなで動詞の過去形を探していく。見つけた過去形は、「ed」の部分の色を変える。Part 1と2の要点の復習だ。

最後は、疑問形と否定形の確認。黒板に書かれた「I enjoyed *hatsumode*。」という英文を、疑問文に変える。ノートに答えが書けた生徒は挙手し、平山先生が見て正解だった場合は、まだできていない生徒のところを回り、ヒントを出したり説明したりする。クラスのおおよそができたところで、一人の生徒が黒板に答えを書き、50分の授業が終了。

デジタルとアナログのハイブリッド型の授業に、ピアラーニングの要素が入り、まとまりのある授業が展開されていた。



本時で初めて学習したUnit 10 Part 3の本文。ここでは、見開きで左右のページとも本文となっている。